杉戸町記者発表資料
○ 令和８年１０月１９日（月）
○ 担当課名　議会事務局
○ 担当者職名 局長　氏名 冨岡英一
○ 担当者職名 次長　氏名 濵島和弘
○ 電話番号 0480-33-1111（内線２２８）
○ 17時15分以降の問合せ先
（直通電話）0480-33-4287

～ 杉戸高校生と杉戸町議会議員が意見交換 ～
「議会懇談会」を開催しました

杉戸町議会は、10月3日（土）埼玉県立杉戸高等学校の生徒を議場に招き「令和8年度議会懇談会」を開催しました。

本懇談会は、高校生に地方議会の仕組みや役割への理解を深めてもらうとともに、若者の柔軟な発想や意見を今後の町政提言や政策立案に活かすことを目的として実施しました。

当日は議場での講義に加え、生徒と議員が３つのテーマについてグループワークを行い、活発な意見交換が展開されました。

参加した生徒の皆さんからいただいたご意見は、今後の町政・議会活動における検討課題として活用してまいります。また、いただいたご意見がどのように町政へ反映されたかについても、追って生徒の皆さんへフィードバックしていく予定です。

概　要

１　日時　令和８年１０月３日（土）９時００分～１２時３０分

２　会場　杉戸町役場 本庁舎２階 議場、全員協議会室等

３　内容　第１部　議員による講義（２０分間）
「地方議会」の仕組みと私たちの役割
第２部　グループワーク（１５０分間）
【テーマ】
Ａグループ：学校と地域が一緒にできる「町の活性化」ってなんだろう？
Ｂグループ：若者の投票率を上げるには？
Ｃグループ：どんな町なら住みたい・住み続けたい？

４　司会　総合司会：伊藤美佐子（いとうみさこ）議会運営委員会委員長
Ａｸﾞﾙｰﾌﾟﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：宮田雄一（みやたゆういち）総務建設常任委員会委員長
Ｂｸﾞﾙｰﾌﾟﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：冨澤義之（とみざわよしゆき）教育厚生常任委員会委員長
Ｃｸﾞﾙｰﾌﾟﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：平川忠良（ひらかわただよし）議会だより編集委員会委員長

５　参加人数　２５名（生徒１２名、議員１３名）

その他

【別添資料】 参加者コメント、当日の写真４枚、懇談会レポート

【取材対応】 取材を希望される報道各社の方におかれましては、記者発表担当者（本紙右上の電話番号）まで、事前にご連絡ください。

資料　参加者コメント

議長コメント

　生徒の皆さんが普段から杉戸町をよく観察し、課題解決に向けて真剣に考えて準備してくれたことに深く感銘を受けました。オンライン投票の導入や自転車専用レーンの整備、地域活性化のアイデアなど、大変心強い提案ばかりでした。本日いただいた貴重な意見は、グループワークでまとめた模造紙の中だけに留めず、町の政策提言へ繋げる『宝物』としてしっかり活用してまいります。

参加した杉戸高校生の感想（要約）

・想定していたよりも遥かに楽しく、行政やまちづくりを考える難しさと面白さを実感しました。議員の皆さんと直接お話しでき、将来への希望が持てる貴重な経験になりました。

・議会でこうした意見を出す機会は、公共の授業のようでもあり、とても楽しかったです。またこのような機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

・街の道路や建物、自然の配置など、裏側で行政や議会がどのような想いで取り組んでいるのかを知ることができ、明日からの生活の視点・視野が変わる良いきっかけになりました。

・授業とは違って自由な発想で意見が出せ、否定されずに受け止めてもらえる雰囲気が嬉しかったです。自分たちの意見が町の活性化に繋がる手応えを感じました。

資料 当日の写真４枚









資料　懇談会レポート

第１部　講義

野口副議長が登壇し、18歳選挙権の意味、首長と議会が互いをチェックし合う「二元代表制」の仕組み、議員のなり手不足や若者・女性の参画促進といった地方議会が直面する課題、一般質問のネット配信などを通じて、身近な地域課題に目を向ける方法について、クイズを交えながら分かりやすく解説しました。

第２部　グループワーク

生徒と議員が3つのテーマに分かれてグループワークを実施。模造紙や付箋を活用したブレインストーミング・KJ法を行い、生徒が発表を行いました。

Ａグループ：学校と地域が一緒にできる「町の活性化」ってなんだろう？

若者ならではの視点とSNSを活用した杉戸町の魅力発信や、高校生が自ら企画・運営するイベントの開催が挙げられました。例えば、杉戸町の特性を活かした「田んぼレース」のような泥んこになって楽しむユニークな農業PR行事のほか、既存のお祭りへの積極的な参加、高校生と多世代が触れ合える交流の場づくりなど、多様なアプローチが提示されました。

Ｂグループ：若者の投票率を上げるには？

投票率を短期間で大幅に引き上げる手段として「投票の義務化」が議論に挙がったものの、それに伴うデメリット（逆に関心低下を招く）が大きいと分析。義務化に頼らず、若者が自発的に選挙に参加したくなる「投票環境の改善（オンライン投票等）」「SNS（TikTokやインスタグラム）を活用したPR」「主権者意識を高める教育の強化」の3つのアプローチを推進すべきという結論に至りました。

Ｃグループ：どんな町なら住みたい・住み続けたい？

4つのテーマで課題と解決策を整理し、施策実現には「行動力」と「若者のアイデア活用」が最重要であると結論付けました。

①防災・防犯・安全

杉戸高校前などの狭い通学路・生活道路に対し、歩行者・自転車レーンの分離整備を実施。併せて防犯カメラ設置や街灯増設を行い、町全体の安全基盤を強化する。

②まちの活性化・商業施設

駅前の賑わい向上や財源確保のため「稼ぐまちづくり」を推進。民間企業・地域と連携し、有名企業や飲食店・チェーン店の誘致、PR活動、挨拶が行き交う賑わい創出を目指す。

③自然環境

自然が豊富な東部に対し、緑が少ない西部・市街地エリアでも緑化を推進し、町全体で豊かな自然環境を共有する。

④生活・居場所づくり

子どもから高齢者まで交流できる場として、自由な休憩処を整備。ご近所付き合いや地域コミュニティの再生を図る。